
雨

切原美樹

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨

【Nコード】

N2520F

【作者名】

切原美樹

【あらすじ】

雨の日、傘を忘れた幸村の前に現れた仁王。でも、何だか仁王は上の空で…。「君の心に映る人は、一体誰なんだ？」

（前書き）

悲恋です。…もろB L っ て感じではないと思う（え…）
のでそこをふまえて御覧ください。

ザアア……

「うわあ……降ってきた……。」

朝はすごい晴れていたのに、今は「本当に晴れてたの？」って言う位の雨が降っている。

「はあ……何でこう言う日に限って折りたたみ傘忘れるのかなア。」

鞆の中をあさってみるがやっぱり傘は無い。このままつっぱしって帰るか？でも、そんな事

したら、間違い無く俺は風邪をひく。そんな事になったら、真田に「たるんどる！！」って

怒られるんだろうなア。

雨が止むのを待とうとも思っただけど、雨は、強くなる一行。諦めてこのまま帰ろうとした時

「待ちんしゃい。」

1人の男が、俺を呼び止めた。

「……仁王かい？」

見なくともわかる。同じテニス部の仁王雅治だ。

「ようわかったのう。」

「ふふ……声を変えても、そんな喋り方、お前位だろう？」

「それもそうじゃの……。」

「ククッ」と仁王が笑う。でも、俺は仁王が何故か普段と違って見えた。

……なんだろ、この違和感。

「ね……君柳生だったりしない？」

「ふ……やはり、君は騙せませ……」あゝなワケないかア。柳生はもつと背高いもん。」

仁王は「やっぱダメか」と言いながら俺を見る。

「そういえば、お前さんさつき、傘差さずに帰ろうとしたじゃろ？」

「うん…実は傘を忘れてね…。」

「ほう…お前さんも意外とぬけてるな。」

珍しいものを見る様な目で俺を見る。

「入ってくか？」

「男同士で相合傘か…寂しいね…」

「…入らないんか？」

「ふふ…嘘だよ、お言葉に甘えて。」

仁王が傘を差し、俺が隣に入る。雨はやはり、強くなる。

強い雨の中、俺たちはバス停に向かう。最初は普通に部活の会話だったけど、いつの間にか、

仁王が黙り込んで、会話が途切れる。俺が何か言っても、「ああ…」しか言わない。

まるで、他の事を考えている様だった。哀しいなあ…今君の隣にいるのは、俺なのに…。

多分、考えているのは…。

「そうじゃ、奈緒…」

「……ドクン

「じゃなかった…幸村…」

やっぱり、あの子の事だったんだ…。

奈緒、と言うのは、戸崎奈緒。仁王の彼女だ。仁王は前は女遊びとかしていたけど、彼女に

会って止めたらしい。しかし、また仁王の女遊び疑惑が出て3日前別れたと言う噂があった。

正直、チャンスだっと思った。でもやっぱり、俺はあの子以上には、なれないんだね。

「仁王、戸崎さんのとこ、いってきなよ。」

「？幸村…。」

「忘れられないんだろ？確か、まだ学校に残ってたよ？」

「ッ…！幸村、俺はアイツとは別れたんだ。それにもう、あんな奴俺の眼中には「嘘だッ！」

ねえ、仁王、俺の前では強がらなくていいんだ。だって…俺達は…
「…仲間の前では…強がるなよ…。」

『LLLLLL…』

俺が言った途端、仁王の携帯が鳴る。相手は…

戸崎奈緒

「仁王…出てあげて。」

「…。」

仁王は無言で携帯を出し、戸崎さんの電話に出る。

『雅治…ごめんね、疑ったりして…うう…』

「…奈緒。」

『もう1回やり直そ…？いつもの場所で…待ってるか…ら…ッ。』

「…。」

「仁王、行つてあげて？」

彼には迷いがあるんだ。なかなか1歩を踏み出せない…だったら俺が、背中を押してあげる。

今の俺には…それしか出来ない…こう言う方法でしか、彼を幸せに出来ない。

「…。」

「仁王ッ…!!」

気づいて？これが…俺の精一杯。

「…奈緒、今行くからな…」

仁王の優しい声、これは、戸崎さん専用。

「幸村、ありがとう…」

「…そんな事いいから、早く行つてあげて？」

「…すまん！」

そう言うと、仁王は持っていた傘を落とし、立海へと全力疾走で走って行った。

・・・ねえ、仁王。1つ、俺の願いを叶えて？

「・・・うう・・・ああ・・・！」

・・・幸せになつて？仁王・・・

雨はまだ降り続けている。

最初はちよつといやだったけど、今は少し心地よい・・・雨。

俺の涙を隠してくれてる雨。

だから、今だけは・・・俺の悲しみを洗いながして？

・・・彼の愛しさと一緒に・・・

（END）

（後書き）

仁王ファンの方すみません。幸村クンも勢いで泣かしちゃいました。

（おい）なんかもう、駄文で…

本当すみませんッッ！！！！（土下座）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2520f/>

雨

2010年10月21日20時53分発行